

# 夏期日本語教育報告



## 総 括

夏期日本語教育ディレクター

田中 和美

猛暑日、真夏日が続き、豪雨や落雷などに見舞われ、天候に翻弄された 2013 年夏期日本語教育 (SCJ) であったが、無事 6 週間のプログラムを修了することができた。受講生 76 名という、東日本大震災のあった 2011 年の 67 名に次ぐ少ない人数であったが、本館耐震工事のため SCJ オフィスと講師室のある第 2 教育研究棟 (ERB2) に隣接する総合学習センター (ILC) を教室として使用するという例年とは異なった状況下、一体感が芽生え、受講生は良く交流し、楽しい雰囲気がみられた。

今年も SCJ を開催でき、成功裏に終わったことは、学内、学外の多くの方々のご支援がなければできないことであった。ここに心より御礼申し上げます。

### 1 講師陣

日本語教育課程 (JLP) からの教務主任及びディレクターも授業を持ち、さらに JLP 専任講師が 2 名、JLP 非常勤講師が 2 名加わり、外部からの講師 11 名を迎え、計 17 名の講師陣であった。8 レベルのうち、6 レベルのコースヘッドを JLP 専任もしくは非常勤講師が担当し、安定したプログラムを提供できた。

### 2 クラス編成およびプレースメント；オンラインテストの利用

C1 から C8 まで 8 レベル開講した。そのうち、C1 のみ部分的に 2 セクションとなり、C7 と C8 の授業を一部合同で行った。

受講生のクラス振り分けの補助となるよう、今回初めてオンライン日本語テスト J-CAT を用いた。受講生には 6 月の決められた時期に J-CAT を受験するように伝達し、その結果は J-CAT からこちらに配信された。おおよそのクラスの人数の把握、そして教員配置に役立った。

### 3 JASSO 奨学金

今回新たに始まった日本学生支援機構 (JASSO) の留学生交流支援制度 (短期受け入れ) を申請した。SCJ のみの参加の 16 名、秋から大学に残る交換留学生 5 名、合わせて 21 名が受給し、初めて受講生の経済的支援ができた。今後はより幅広く申請して活用していきたい。

### 4 教室、講師室

本館の耐震工事が実施され、教室として ILC の 10 室を使用した。ラボ 4 部屋、コンピューター室 3 部屋で、最適とはいえない環境ではあったが、苦情も出ず、いろいろと工夫しての利用であった。10 室の鍵の管理をしなければならなかったことは一仕事ではあったが、機材の貸し出しを必要としたのは 2 教室のみであったことは助かつ

た。講師室は、昨年同様 ERB2 の JLP 非常勤講師室 2 部屋を当て、ERB2-130 の部屋を授業支援室とし、教務主任の指揮下、授業ヘルパー及び学生アルバイトの教務助手 2 名が鍵の管理、印刷請負、機材の貸し出しなどの業務をこなした。JLP の ERB2-105 を教材作成室として使用し、印刷業務などはここでいった。

## 5 カリキュラム

JLP のカリキュラム変更に伴い、C4、5、6 は新しい教材を用いた。コースヘッドへはスケジュール、評価方法などを事前に渡し、JLP と同等の水準を保つことができたと思われる。C7 と C8 は JLP の通常学期のシラバスは用いず、コースコーディネーターが教務主任、ディレクターと相談した上で教材を作成した。

## 6 文化プログラム

JLP 専任講師が文化プログラム主任を引き受けてくれたので、大変スムーズに運んだ。本館から自動販売機を ERB2 外のテーブル付近、ならびに文化プログラムラウンジとした ILC2 階のラウンジに移設し、受講生の多くはどちらかの場所に集まり、交流が盛んに行われた。今年のプログラムは、週に 2 回イベントを開催するように企画し、学内のイベントは火曜日、学外でのイベント 3 回は金曜日に実行することができた。昨年同様、参加人数が限られているものには、希望者を募りくじ引きとし、問題なく運営できた。学生アルバイトの文化プログラム助手 3 名は、受講生たちの相手をよくしてくれ、またラウンジでの企画もあり、大変好評であった。毎週水曜日の会話パートナーの企画も活発に行われ、日本語学習に役立った。

## 7 宿舎

今年は樺寮を使用した。寮の職員、学生アルバイトの寮ヘルパーのサポートのもと、大きな問題はなく、寮生たちは快適に過ごすことができた。寮でカレーパーティを開いていただいたおかげで、寮生たちの交流は一層深まった。夜間に具合が悪くなった学生を寮の職員、ヘルパーが協力して、武蔵野赤十字病院に連れて行ってくださるということもあった。幸い大事には至らなかった。ホームステイを希望した受講生を受け入れてくださるホストファミリーが 12 家族集まり、受講生が日本人家庭の生活を体験できたことは、ありがたいことだった。

## 8 看護師

看護師に期間中常駐してもらえるのは、大変助かる。皮膚、胃腸、血圧による不調、足の怪我などで保健室を訪れた受講生たちがいた。病院への付き添いが 7 回あったが、大事に至ることなく済んだ。

## 9 大学の一斉休暇、振り替え休日における責任の所在

今年の SCJ で危機といえる出来事が 2 度あり、双方ともに大学の休暇中のことであった。7 月 22 日 (月) 大学一斉休暇の初日に ERB2-105 の共有コンピューターにウイルスが検出された。大学のヘルプデスクは閉鎖中であり、たまたま勤務していた職員か

ら、休暇中の職員に連絡が行き、わざわざボランティア出勤してきてくださり、急場を凌ぐことができた。2回目の危機は8月12日(月)の大学振り替え休日の日であった。前日にICU構内でいくつもの落雷があり、その影響で停電したり、水道が止まったりした。SCJにとっての一番の痛手は共有ならびに研究室のパソコンが使用できなくなっており、インターネットもつながらない状態が、月曜日の朝出勤してきて判明したことであった。授業で使用する教材ファイルをコンピューターから取り出すことができず、かなり慌てふためいた。教務主任の機転でILCのコンピュータを使用し、その場は凌げた。その後、前回同様ILCの方が個人的に見に来てくださり、何とか一部復活することができたが、その影響はしばらく続いた。

大学の行事の一環としてのSCJで、76名の学生を勉学の目的で預かっている中、安全で適切な学習環境を提供する義務が大学にあると思われる。もし、今回のように個人的な支援がなく、大学側の対応が不十分で授業ができなかった場合は、どのように保障するのであろうか。前日に落雷があった時点で、休日であってもSCJ運営に支障がないかを確認していただき、必要な支援をいただきたかった。

一斉休暇中や振り替え休日で大学が機能していない状況下でもSCJは行われているが、その際に起こるトラブルにどのように対応していけばよく、誰が責任をとるのか、今後もSCJの位置づけを問い正していきたい。

以上  
2013年10月17日

## 教務報告

夏期日本語教育教務主任  
小澤 伊久美

2013年度の夏期日本語教育（SCJ）も、小規模人数での開催となったが、ディレクター総括で指摘されたコンピュータウィルスと落雷による被害があった以外には大きな問題はなく終了した。以下に、期間中のスケジュールやコース編成等、簡単に報告する。

### 1. 期間中のスケジュール

7月3日（水）	午後	全体講師会 *コースコーディネーターはシラバスとスケジュールを提出 プレースメントテスト実施要領説明
7月4日（木）	午前から 午後	学生の登録・入寮 全体オリエンテーション
7月5日（金）	午前 午後	プレースメントテスト実施、C1 授業開始 歓迎会、学生向けキャンパス・ツアー実施 プレースメントテスト採点及び判定会議
7月8日（月）	午前から	レベル判定結果発表、授業開始 *講師は午後、学生のコース移動等に対処
7月9日（火）	午前	学生向けテキスト販売
7月10日（水）	午後	全体講師会 *毎週水曜日（7月17日と8月14日を除く）の同時刻に全体講師会あり 学生のコースを確定 *コースコーディネーターは学生名簿と授業担当者スケジュールを提出
7月17日（水）	午後	講師懇親会
8月15日（木）	午前 午後	授業最終日 歓送会
8月16日（金）	午前 3:00 までに	コース報告会 成績・報告書等 提出

### 2. コース担当講師と学生数

今年度も SCJ ディレクターと教務主任がコースコーディネーターとしてコース（C8 および C6）を担当した。この2名の担当授業コマ数は通常の講師より少ないため、この2コースについては、担当講師数やコース内での教員配置が他コースとは異なっている。C6とC8との調整のためにC7についても他コースとは異なる形の教員配置となった。結果として、関わるコース数や学生数が多くなってしまった講師と、そのコースのコーディネーターには、通常よりも負担をかけることになったと思われる。

学生については、C1の学生数が多かったため部分的に2セッションで運営した。コース半ばで学習上の問題を抱えている学生が複数名いることがわかったが、短期間に集中的に学ぶプログラムを運営する中で突然の告知に対応することは難しかった。個人指導をするなど出来るだけの手当をすることにしたが、プログラムの途中で履修をあきらめて帰

国するという選択肢を選ばざるを得ない受講生も出てしまった。初めて日本語を学習する場合、日本語学習を進める上でどのぐらいの学習困難を抱えることになるかということに、SCJを履修してみるまで学習者自身が気づかないケースもある。したがって、C1 受講希望者について特に注意を払う必要があるだろう。

今年度の SCJ のコース編成、講師の配置と学生数は以下の通りである。

各コース担当者			*C7 と C8 は一部合同クラス	
レベル	教室	コーディネーター	ティーチングスタッフ	学生数
C1	I-161/162	松井 咲子	川口 真理子・岩下 芙美	13
C2	I-103	畠山 衛	助川 愛	10
C3	I-104	桜木 ともみ	中野 奈央	14
C4	I-106	保坂 明香	中 智恵子	13
C5	I-131	成 永淑	木田 佳与子	10
C6	I-132	小澤 伊久美	谷口 かおり・川名 恭子	4
C7	I-101	増田 恭子	川名 恭子	7
C8	I-102	田中 和美	加藤 久子	5
合計		教員：17 名		76

\* C7 と C8 は一部合同

\* C8 は継承語系の学生を対象としたコース

なお、この他、教務助手 2 名（学生アルバイト：新垣美樹、岡野恵美の 2 名が交替で勤務）と授業ヘルパー 1 名（シフト制で全 9 名が交替で勤務）が教務室（ERB2-130）にて教務関係の仕事の補佐（教材印刷、総合学習センター（ILC）の鍵・視聴覚機器・パソコン・事務用品等の貸し出し、日本人学生会話ボランティアの手配、その他教員への連絡・対応等）を行なった。

### 3. 使用教科書

コース	使用教科書
C1 (初級 1)	『ICU の日本語 Vol.1』
C2 (初級 2)	『ICU の日本語 Vol.2』
C3 (初級 3)	『ICU の日本語 Vol.3』
C4 (中級 1)	『ICU 中級日本語 1 (試用版)』
C5 (中級 2)	『ICU 中級日本語 2 (試用版)』
C6 (中級 3)	『ICU 中級日本語 3 (試用版)』
C7 (上級)	『どんな時どう使う日本語表現文型 500』 アルク
C8	“ <i>Kanji in Context</i> ” Workbook Vol.1, The Japan Times

#### 4. 授業時間

授業は月曜日から金曜日まで以下の時間帯に行なった。但し午後については、毎週水曜日に全体講師会を開催し、個別指導は水曜日以外の4日間で行なった。

1限	8:50-10:00
2限	10:10-11:20
3限	11:30-12:40
-----	
《昼休み》	
-----	
個別指導	13:40-14:50

#### 5. 使用施設

授業は本館が耐震工事で使用できなかったため ILC の1階のみで行なった。教員室は第二教育研究棟 (ERB2) の126・127の2室を、教務室 (教務助手・授業ヘルパー控室) と教材作成室は同じく130・105を使用した。

ILC はコンピュータを使う授業などを行なうのに便利だったとこと、教員室などから近いという利点があったが、セクション数が今年度以上に増えた場合には必要な部屋数が確保できるかという問題点があると思われる。

#### 6. その他

今年度はICU日本語教育プログラム (JLP) の常勤教員4名、非常勤講師2名が授業を持った。SCJのコース全体の教材や授業運営をJLPと同等の質のものにすることが求められており、かつ、JLPで開発を進めている中級教材を試用しているという現状を考えると、前述のように通常学期にJLPで教鞭を執っている教員がSCJに関わったことはSCJの運営を安定させる大きな要因であったと思われる。



## 文化プログラム報告

文化プログラム主任  
数野 恵理

2013 年度の夏期日本語教育 (SCJ) 文化プログラムも多くの方々に支えられ、無事に終えることができた。受講生たちは文化プログラムを通して日本人と交流し、日本文化への理解を深めることができたようだ。

### 1. 文化プログラムラウンジ (CP ラウンジ)

本館の耐震工事のため、今年度は CP ラウンジが総合学習センター (ILC) の 2 階に設営された。CP ラウンジには学生アルバイトの文化助手 3 名 (落合由美、高橋花菜子、前田早央理) が交代で常駐し、おにぎりの販売、イベントの申し込み受付、集金などを行うとともに、学生が休み時間や放課後に会話、折り紙、ビデオなどを楽しめる場を提供した。教室がすべて ILC1 階にあったため、イベントのポスターを 1 階に掲示するなどの工夫が必要だったが、休み時間には大勢の受講生が CP ラウンジに集った。

これまで SCJ では文化助手が受講生と英語で話してしまう傾向があることが度々指摘されてきたが、今年度はできるかぎり日本語を話すように徹底した。文化助手を採用するための面接の段階からこの点を明確にし、プログラム開始時にも改めて文化プログラムの目的を文化助手に伝えた。その結果、どうしても日本語で通じない場合を除いて文化助手 3 名とも日本語で受講生に接し、受講生も積極的に日本語で文化助手に話す様子が見受けられた。また、従来はポスターなどの掲示物も初級の学生がわかるように英語のみで書かれたものがほとんどだったが、今回は日本語を増やした。

### 2. 文化イベント

昨年度に倣い、今年度も基本的に学内でのイベントを火曜日、学外でのイベントを金曜日の午後に企画し、週に 2 つのイベントを実施した。今年度の文化プログラムは以下の通りである。

日程	イベント	講師	定員	希望者数	参加者数
7月9日(火)	いけばな	塚本草昌先生	20名	33名	20名
7月12日(金)	観音院坐禅体験	観音院 来馬正行住職	26名	34名	30名
7月16日(火)	和太鼓の鑑賞と ワークショップ	ICU 和太鼓部	20名	20名	20名
7月19日(金)	歌舞伎鑑賞		35名	35名	35名
7月23日(火) 24日(水)	布ぞうり作成体験	野川公園ボランティアの 先生 (田中すみ先生ほか)	20名	38名	20名

7月26日(金)	茶道	ICU 茶道部	30名	34名	30名
7月30日(火)	日本舞踊	ICU 日本舞踊研究会顧問 水木和歌先生ほか	40名	28名	28名
8月2日(金)	ジブリ美術館		30名	49名	30名

今年度は76名という小規模な SCJ であったが、ほぼ毎回定員を上回る数の学生が応募し、抽選を行うことになった。特にジブリ美術館は毎年定員を大幅に上回る応募がある。ジブリ美術館は抽選に漏れた学生も各自で予約をして訪れることができるが、やはり「他の学生と一緒にいきたい」「もっと枠を広げてほしい」という声が多数聞かれた。

アンケート結果を見ると、どのプログラムも大変好評で、講師の先生方に感謝する声が多かった。特に、同じ大学生による企画・運営の質の高さに感銘を受け、学生と交流できたことを喜ぶ学生は非常に多かったので、ICU の学生団体に継続して協力を依頼したい。

プログラム開始前から予定されていた上記のイベントの他に、「七夕」「湯浅八郎記念館見学」「スイカ割り」「日本の遊び大会」が行われた。2013 年は七夕の7月7日が日曜日だったため、7月5日の歓迎会の会場に笹を飾り、その場で願い事を書けるようにした。会場に入ってすぐに多くの学生が興味を示し、「日本語が上手になりますように」というような願いを短冊に書いて飾った。7月11日にはICU 学内の湯浅八郎記念館の特別展「コンビニ・これって民藝？」のツアーがICU のホワイトロー教授によって行われた。また、学生助手の企画により、8月6日に「スイカ割り」、9日に「日本の遊び大会」が開催された。「日本の遊び大会」では受講生が文化助手とボランティアのICU の学生とともに書道、福笑い、あやとり、けん玉、おはじきなどを楽しんだ。プログラムの最後に文化助手にこのようなイベント企画・運営を任せることで、助手の学生にとってもよい経験になったと思われる。

### 3. 会話ラウンジセッション

7月の水曜日の午後は毎週会話ラウンジセッションを開き、受講生と日本人学生が小グループで話せるようにした。学生は授業終了後、たいてい昼食を買いに食堂やディッフェンドルファー記念館西棟に行くので、学生が参加しやすいよう、ディッフェンドルファー記念館西棟のラウンジで会話ラウンジセッションを行い、昼食をとりながら参加してもよいことにした。昨年までは参加者がそれほど多くなかったようだが、今年度は多くの受講生が参加した。初回は授業開始3日目に行ったが、日本語を習い始めたばかりのC1クラスの学生も多数参加していたため、レベルによって会話のグループを分けた。また、初級のC1～3クラスに関しては当日までの学習項目を使った会話の例をボランティアの学生に提示し、日本語学習を始めたばかりの学生ともスムーズに会話が進められるよう工夫した。会話ラウンジセッションの日程と参加者数は次のページの通りである。

日程	受講生の参加者	ボランティアの日本人学生
7月10日(水)	18名	4名
7月17日(水)	21名	6名
7月24日(水)	13名	7名
7月31日(水)	26名	10名

8月の水曜日に帰国前のオリエンテーションがあったことや、期末試験直前であったことから、会話ラウンジセッションは開かなかったが、8月にも開いてほしかったという声が聞かれた。来年度は小規模でも希望者のために開催できるとよいだろう。

#### 4. 終わりに

SCJ 期間中はキャンパスにいる日本人学生の数が少ないが、会話ラウンジセッションや文化イベントを通して受講生はICUの学生や地域の方々と知り合い、交流を深めることができた。また、SCJの学生との交流を希望するICUの日本人学生は非常に多く、ICU生にとってもSCJでのボランティアは貴重な機会となったようだ。

今年度は後半に入ってから豪雨や落雷に見舞われたが、文化プログラムのイベントがその影響を受けなかったのは幸いであった。近年の異常気象を考えると、今後、学外イベントを実施するにあたっては豪雨や雷雨で公共交通機関が運転停止した場合を想定して、計画を練る必要があるだろう。

最後になるが、こうして毎年文化プログラムが実施できるのはホスピタリティーあふれる多くの方々の支えがあってこそである。これまでは日本語の講師としてSCJに関わってきたが、今回文化プログラム主任を担当することで、SCJが多くの方に支えられて成り立っていることを改めて実感することができた。この場を借りて感謝申し上げる。

# 事 務 報 告

## 1. スタッフ

田 中 和 美            ディレクター・文化プログラム主任  
小 澤 伊久美        教務主任  
朝 倉 怜 子        日本語教育研究センター事務室業務担当

篠 原 将 成           オフィス・アシスタント (研究所助手)  
ジョーンズ テニール   オフィス・アシスタント (研究所助手)

新 垣 美 樹           教務助手 (学生アルバイト)  
岡 野 恵 美           教務助手 (学生アルバイト)  
他、授業ヘルパー    8名がシフト制で1日1名勤務

落 合 由 美           文化プログラム助手 (学生アルバイト)  
高 橋 花菜子        文化プログラム助手 (学生アルバイト)  
前 田 早央理        文化プログラム助手 (学生アルバイト)

2. 講師名簿 (所属は 2013 年 4 月 1 日現在)

教務主任	小澤 伊久美	国際基督教大学	日本語教育課程	講師	課程准教授
C1	松井 咲子 岩下 芙美 川口 真理子	国際基督教大学 University of North Carolina, Chapel Hill Michigan State University	日本語教育課程	特任講師 Japanese Lecturer Instructor of Japanese	
C2	畠山 衛 助川 愛	Carnegie Mellon University Oberlin College	Graduate Teaching Assistant Lecturer in Japanese		
C3	桜木 ともみ 中野 奈央	国際基督教大学 Michigan State University	日本語教育課程	特任講師 Instructor	
C4	保坂 明香 中 智恵子	国際基督教大学 Sarah Lawrence College	日本語教育課程	非常勤講師 Guest Faculty	
C5	成 永淑 木田 佳与子	国際基督教大学 Yonsei University	日本語教育課程	非常勤講師 Lecturer	
C6	小澤 伊久美 谷口 かおり 川名 恭子	国際基督教大学 Imperial College London, King's College London 早稲田大学日本語教育研究センター	日本語教育課程	講師 Japanese Lecturer インストラクター (非常勤)	課程准教授 Lecturer (C6・C7・C8 を担当)
C7	増田 恭子 川名 恭子	Georgia Institute of Technology 早稲田大学日本語教育研究センター	Associate Professor インストラクター (非常勤)		(C6・C7・C8 を担当)
C8	田中 和美 加藤 久子 川名 恭子	国際基督教大学 関東学院大学 早稲田大学日本語教育研究センター	日本語教育課程	主任 教授 非常勤講師 インストラクター (非常勤)	(C6・C7・C8 を担当)

### 3. 2013年 文化プログラム カレンダー

月	火	水	木	金
		7/3	7/4 登録 オリエンテーション	7/5 プレースメントテスト 歓迎会、キャンパスツアー 笹に七夕の願いごとを 飾るようにした
7/8 授業開始	7/9 いけばな	7/10 CP Lounge 会話ラウンジ セッション	7/11 湯浅八郎記念館特別展 「コンビニ・ これって民藝？」	7/12 坐禅
7/15	7/16 和太鼓	7/17 CP Lounge 会話ラウンジ セッション	7/18	7/19 歌舞伎 (国立劇場)
7/22	7/23 布ぞうり作り1日目	7/24 布ぞうり作り2日目  CP Lounge 会話ラウンジ セッション	7/25	7/26 茶道
7/29	7/30 日本舞踊	7/31 CP Lounge 会話ラウンジ セッション	8/1	8/2 ジブリ美術館
8/5	8/6 すいゝ割り	8/7	8/8	8/9 CP Lounge 書道と 日本の遊び大会 (福笑い、あやとり、 けん玉、おはじき等)
8/12	8/13	8/14 授業終わり 歓送会	8/15 退寮日	8/16

#### 4. 学生に関する統計

##### A. 応募者内訳

応募者	102
合格者*	98
不合格者	4

* 合格者	98
受講辞退者	22
受講者	76

##### B. 受講者内訳

###### ① 身分別

	男	女	計
一般学生	28	26	54
教育交流プログラム学生*	10	12	22
合計	38	38	76

* 〈内訳〉 University of California	8	4	12
Pomona College	2	8	10
合計	10	12	22

University of Pennsylvania は今年申込無し。

###### ② 宿舎別

	男	女	計
自分で用意	1	5	6
ICU が用意*	37	33	70

* 〈内訳〉 学生会館	0	2	2
櫛寮	30	26	56
ホームステイ	7	5	12
合計	37	33	70

③ 国籍

CANADA	6	INDONESIA	1	RUSSIA	1
CHINA	8	ITALY	1	SINGAPORE	3
DUTCH/JAPAN	1	JAPAN	1	TAIWAN	4
GERMANY	1	JAPAN/USA	4	UK	1
HONG KONG	1	KOREA	1	USA	41
USA/IRELAND	1				

Total 76

5. ホストファミリー（家族数）

杉並区	1
三鷹市	5
府中市	1
小金井市	3
八王子市	1
調布市	1
合計	12